



秋季大会 2022
in Okinawa

2022.11.17 Thu. - 11.18 Fri.

2030年の日本の未来を語り合う

～過去の歴史を振り返り、より良い社会の実現を目指して～

2022年度FUJITSUファミリー会秋季大会は、3年ぶりとなるリアル開催。舞台は、2022年本土復帰50周年を迎えた沖縄です。この記念すべき年に、沖縄が、そして日本が歩んできた歴史を紐解いて先人たちの選択に学び、混迷の時代をどう生き抜くか、より良い未来を目指して、今私たちに何ができるのかを、ともに考え、語り合う機会となりました。

Contents 会報Family VOL.408

- Page -
- ② 秋季大会 2022 in Okinawa
 - ⑧ 秋季大会講演録「沖縄再発見」
 - ⑪ ICTトレンド2022
 - ⑫ Family's Information
 - ⑬ BranChannel
信越支部：佐渡市と富士通が
二人三脚で取り組む地域DX
 - ⑰ LS研究委員会 活動案内・活動報告
 - ⑲ LS研究委員会 ICT白書2022

日本の未来のために何をすべきか、何をしたいか。 眠れる「希望」が目覚めた2日間

世界を巻き込んだパンデミック、自然災害の多発、紛争やその影響による国際情勢の混乱など、私たちは今、不安定で不確実、「明日何が起こるか予測ができない時代」の渦の中に立っています。2022年度の秋季大会は、激しく変化する社会環境の中で、難しい舵取りを迫られている経営者の皆さんや、自らの働き方・生き方を模索しているビジネスパーソンに向けて、各界のリーダーから心に響く提言をいただき、自分の中のインサイトを見いだす、始まりの場所となりました。

講演やディスカッション、パフォーマンスの様子は、バーチャル会場を使ってライブ配信し、多くの方々にご視聴いただきました。初めてハイブリッド形式で行われた秋季大会を楽しんでくださっていたら幸いです。

また、アクティブプログラムを通じて、沖縄の豊かな自然とユニークな歴史・文化を体感できたことも、私たちの生活、社会、産業のサステナビリティを見直す良い機会になったのではないのでしょうか。参加者の体験記から、伸びやかな沖縄の風を感じてみてください。

11/17 Thu.

On Stage & Online

Thanks Gathering

Speech & Lecture



司会進行：たかだしょうこ氏
ファミリー会理事 大林孝至



3



4



5



7



8

Program

主催者あいさつ

- 1 FUJITSUファミリー会 会長 佐藤 智
- 2 FUJITSUファミリー会沖縄支部 支部長 儀保 清美
- 3 富士通株式会社 代表取締役社長 時田 隆仁

来賓ごあいさつ

- 4 沖縄県知事 玉城デニー 氏代理 沖縄県副知事 照屋 義実 氏
- 5 宜野湾市 市長 松川 正則 氏

講演

6 DE&I 違いを活かす ～新しい日本型社会のヒント～

富士通株式会社 執行役員 EVP CMO 山本 多絵子

Review

Diversity (多様性)、Equity (公平性)、Inclusion (受容性)は、組織・チームを率いる上で重要な視点です。多様な人材が互いに認め合い、一体となって事業発展のために働く。このような理想の実現を阻むのが「アンコンシャス・バイアス(無意識の偏見)」です。無意識なだけに、何気ない発言や行動に現れてしまう思い込み。見過ごしたまま放置すると、モチベーション低下、ハラスメント、コミュニケーション不全、ひいてはパフォーマンス低下にもつながりかねない、やっかいな問題です。

そこで、リーダーに求められるのは、「アンコンシャス・バイアスが作用しにくい環境づくり」です。山本自身がキャリアの中で培った実践知をもとに、「多様なメンバーを受け入れ、マイノリティも自分らしく力を発揮できる職場づくり」をご提案しました。

記念講演

7 沖縄再発見

作家 池上 永一 氏

講演の様子は、講演録(8ページ)でご紹介しています。

講演

8 技術で社会をやさしくする

琉球大学 教授 瀬名波 出 氏

Profile

1967年、沖縄県生まれ。琉球大学大学院工学研究科機械工学専攻修了。名古屋大学大学院工学研究科工学博士取得。2006年琉球大学工学部准教授、2018年琉球大学工学部教授に就任。2009年から海洋バイオマスを利用したCO₂削減・利活用研究に着手。学外の研究機関と協働で海藻の早期育成の研究を推進している。最近では海ゴミ(マイクロプラスチック)削減技術開発にも着手している。

Review

瀬名波氏は、琉球大学でのカーボンリサイクル研究をもとに、大学発ベンチャー「株式会社リテックフロー」を立ち上げ、ブルーカーボン[※]を利用する新技術の社会実装、海洋バイオマスの実用化を推進しています。

具体的には、火力発電所等から排出されるCO₂を回収する技術、CO₂を海水に戻し海藻を培養する技術を用いて、海ブドウなどの海藻を陸上で早期育成する実証実験が進行中。安全な陸上での海藻培養は、水産業の変革のみならず、障がい者・高齢者など社会的労働弱者の雇用創出につながることを期待されています。

※海洋生物の作用により、海中に吸収された二酸化炭素由来の炭素



Virtual Hangout

各プログラムは、Web上のバーチャル会場を利用してリアルタイム配信。参加者はアバターを使って会場内を自由に移動でき、近くの人との会話も可能。大勢の人が集まり活発に交流するコンгрессの空気感をオンラインで楽しみました。

11/17 Thu.

On Stage & Online

Panel Discussion



モデレーター：島田 由香 氏



富川 盛武 氏



芳山 紀子 氏



時田 隆仁

Program

パネルディスカッション

9 テーマ：未来を見据えて種をまき、育む

沖縄国際大学 名誉教授 **富川 盛武 氏**
 株式会社ワイズライン 取締役 学院長 **芳山 紀子 氏**
 株式会社 YeeY 共同創業者 代表取締役 **島田 由香 氏**
 富士通株式会社 代表取締役社長 **時田 隆仁**

Review

沖縄経済を牽引する富川氏、沖縄のICT人材教育に貢献する芳山氏、モデレーターとしてウェルビーイング推進の第一人者、島田氏をお迎えし、富士通の時田も加わって行われたセッションでは、それぞれの専門的な見地から、日本の未来に残したいことが語られました。未来を構想する議論の中から、ほんの一部だけご紹介します。

「大きな発展可能性を持つ沖縄は、日本経済を成長へ導くフロントランナーになり得る。世界一の健康・長寿、安全・安心、環境、教育を目指し、ソフトパワー（文化、価値観）にも秀でた沖縄に学ぶことで、日本のプレゼンスは高まると思う」（富川氏）

「情報分野の人材育成は、色のない種をまくことだと思っている。一人ひとりが知識やスキルをどのように活かすか、どんな色の花を咲かせるか、見守っていきたい」（芳山氏）

「テクノロジーを有意義に使ってもらうため、社員が地方に移住し腰を据えてDXを推進するプロジェクトを進めている。たとえ収益につながらなくても、地域の課題を一つひとつ解決し、サステナブルな地域社会の実現を目指していきたい」（時田）

「サステナビリティやウェルビーイングへの取り組みは企業の成長につながることで、そして技術は発展可能性を加速させるものだ」と改めて確認できた」（島田氏）

クロージングアトラクション

10 玉城流玉扇会 琉球舞踊

琉球舞踊「四つ竹」「護身の舞」「エイサー」が披露され、最後に全員でカチャーシーを踊って、秋季大会初日は大団円を迎えました。

次回開催支部あいさつ

11 FUJITSUファミリー会 東海支部 支部長 風間 隆男

2023年秋、ふじのくに静岡でお会いしましょう



11



10



11/18 Fri.

Online



より良い未来をデザインするために。 共感力と創造力を磨く

～ あなたの背中を押してくれる、先駆者からのメッセージ



Program

記念講演

明日への種まき ～第二の手をもつために～

モデル/元・国連世界食糧計画 (WFP)
日本親善大使
知花 くらら 氏



Profile

1982年生まれ、沖縄県出身。女性ファッション誌でモデルを務めるほか、TV・ラジオ・CMでも活躍。2006年、上智大学在学中にミス・ユニバース世界大会で準グランプリに輝く。07年より国連WFPの日本親善大使などを務め、約15年間活動した。12年からは自らのルーツでもある沖縄・慶留間島で子供たちのための保養キャンプを主催。慶留間島にある祖父の生家の再建を目指して、京都芸術大学建築学科を21年に卒業。

Review

「第二の手」は、サム・レヴェンソンの詩の一節に由来します。“年をとると、人は自分に二つの手があることに気付く。ひとつの手は自分自身を助けるため、もうひとつの手は誰かを助けるために”

国連WFPのサポーターとして現地視察に赴き、食糧も医療も教育も行き届かない逆境を目の当たりにし、自分の思いと無力さに葛藤した経験から、知花氏は第二の手をもつことを「まず自分が幸せでいることが、人のために動くエネルギーになる。自分が満たされていれば、他者を思いやり、共感することができる」と解釈されています。そして、第二の手をもっているなら、自分の考えを言葉にし、まずは一歩を踏み出さと呼びかけられました。

「たとえ実を結ぶには時間がかかる課題でも、種をまかなければ、実を結ぶことはありません。お金でも専門的なスキルでも、自分の手の中にあるものを使って、手の届くところから行動すること、それが未来への種まき。その種を大事に育てるうちに、周囲からたくさんの手が差し伸べられるでしょう」

講演

未来の顧客へつなぐ、ファンを育てる マーケティング

株式会社一ノ蔵
代表取締役副社長
浅見 周平 氏



Profile: 株式会社一ノ蔵

1973年、宮城県内の酒蔵4社が1つになって誕生。2023年、創業50周年を迎え、現在は浅見氏をはじめ、創業家の2代目が経営を担う。「自然との共生を大切に。伝統を守っていく。お客様にご満足いただく。地域振興に寄与する」という理念のもと、銘酒「一ノ蔵」は宮城伝統の醸造技術を受け継ぎ、職人の手づくりで醸造されている。FUJITSUファミリー会東北支部会員。

Review

株式会社一ノ蔵では、消費者と直接触れ合い、伝統の醸造発酵技術や日本酒文化を体験してもらいながら、ブランドの魅力を伝えるコミュニケーション活動に注力しています。

試飲会、蔵見学、邑まつりなど、様々なイベントの中でも、小学校5～6年生を対象とする「一ノ蔵微生物林間学校」、大人を対象とした「一ノ蔵日本酒大学」は、両方に参加された方もいる人気企画。小学生が20歳になるまでの時間を埋めるべく、林間学校で20歳の自分にあてたメッセージカードを預かり、20歳のお祝いにそのカードを添えて日本酒を贈るユニークな取り組みは、まさに時を超えて未来の顧客とつなげる仕掛けです。

浅見氏自身が、行きつけの立ち飲み屋さんで「日本酒が届きました」という20歳の学生さんと再会したエピソードは、たまさかの出来事ではなく、丁寧なマーケティング活動の成果と言えるでしょう。

講演

AlphaGOから6年 AIの進化で囲碁の世界がどう変わったか

囲碁棋士 (日本棋院)
大橋 拓文 七段



Profile

1984年生まれ、東京都出身。2002年にプロ入りし、現在7段。日本棋院東京本院所属。囲碁AI研究の第一人者としても知られ、世界のAI開発者と交流を深め、IT企業や大学等とのAI活用の検討などに携わっている。著書に「よくわかる囲碁AI大全 (日本棋院)」 「囲碁AI時代の新布石法 (マイナビ)」 などがある。

Review

コンピュータ囲碁の歴史は古く、富士通は1970年の大阪万博に出展していました。46年後の2016年、プロ棋士に勝つにはまだまだとされていたところに、黒船に乗ってやってきたのが囲碁AI「AlphaGO」です。イ・セドル九段との対局で衝撃的な世界デビュー。その手法は人間の常識を超えるものでした。大橋氏は、棋士としてのアイデンティティが揺らぐのを感じたと言います。

その後、囲碁AIや背景にあるAI技術の動向を追いかけてきた6年間に、分析ツールで囲碁AIの考えが見える化され、AIソフトごとに個性(棋風)があることもわかり、フレンドリーなUIを搭載したロボットも登場しました。そして、大橋氏は今「囲碁AIは勉強の助けになる先生だ」と考えています。

「囲碁の世界だけでなく、あらゆる分野において、AIをパートナーとして活用することは、進化を加速させ、人間だけでは到達できない世界を拓くことにつながるはず」



より良い未来をデザインするために。 共感力と創造力を磨く

～ 唯一無二の歴史・文化をもつ沖縄から、未来へのメッセージ



Program

ライブ中継

沖縄住みます芸人が沖縄の「今」を生中継

出演：ありんくりん
オリオンリーグ

首里城

正殿再建工事準備中の首里城。2026年秋に完成予定



美ら海水族館

バックヤードに潜入。大水槽を上から、裏側からのぞいてみた



講演

「幸福が実感できる島」実現のための指標構築 ～沖縄県民総幸福度GOH提言～

株式会社かねひで総合研究所
代表取締役理事
沖縄経済同友会SDGs委員会
チームGOHリーダー
花牟礼 真一氏



Profile: 沖縄経済同友会SDGs委員会 チームGOH

GOH (Gross Okinawa Happiness: 沖縄県民総幸福度) とは、沖縄県民の幸福度を示す独自の指標。チームGOHは、指標構築に先立って、先行自治体の事例等を調査報告書として沖縄県に提出。今後、県が主催するプロジェクトへの参画、アンケートなどの定点観測、ワークショップなどを行い、GOHをもとにした沖縄県の政策立案をサポートしていく。

Review

幸福というのは、経済的な指標、例えば所得などの数値指標だけでは測れないもの。健康、福祉、子育て、教育、産業、文化、環境など、地域に暮らす人々の生活実感や価値観を総合的にデータ化するのが幸福度指標です。世界一幸福な国ブータンや北欧の国々をはじめ、国内でも東京都荒川区、高知県、岩手県など、先行する自治体には独自の幸福度指標があり、それを起点に地域政策や住民のためのプロジェクト計画が立案されています。

花牟礼氏は「GOHの構築は、沖縄の良さを再発見し、逆に課題を抽出し、沖縄の未来を構想するきっかけをつくる取り組みであり、また、県民一人ひとりが、自分自身や家族の、あるいは企業のウェルビーイングを考える契機にもなるでしょう」と言います。

幸福度指標「沖縄モデル」が、沖縄県政のみならず、日本全体に新しい視点と指針を示してくれることを期待しています。

講演

琉球はなぜアジア有数の交易国家となったのか ～持たざる小国の生き残り戦略～

歴史家
前・浦添市立図書館館長
館長
上里 隆史氏



Profile

1976年長野県生まれ、沖縄育ち。早稲田大学大学院修士課程修了。浦添市立図書館館長を経て、現在、内閣府地域活性化伝道師、法政大学沖縄文化研究所国内研究員。琉球・沖縄の「歴史」という視点から、沖縄文化の普及活動を行うとともに、観光、人材育成、商品開発などを通じて地域力向上に貢献。著書に「琉球という国があった(福音館書店)」「海の王国・琉球(ポードーインク)」など。

Review

15世紀に成立した「琉球王国」は、資源も特産品もない小国でありながら、アジアの国々との貿易により繁栄しました。背景にあったのは、巧みな外交、港湾都市那覇に居留する外来人の登用など、海と大国に囲まれた琉球ならではの戦略。17世紀に入り交易が衰退すると、現代の沖縄につながる産業、文化・芸術を興し、社会構造を変革することで450年間にわたり存続しました。

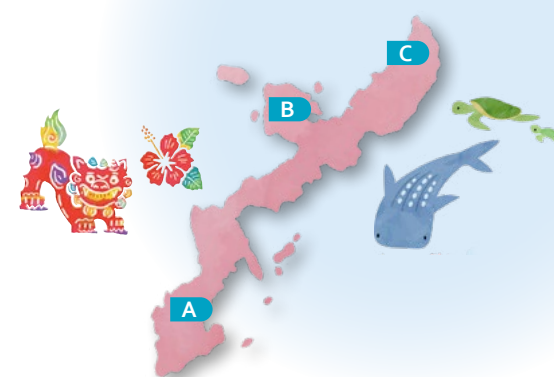
上里氏は、「持たざる小国の生き残り戦略」は、将来の日本を構想していくうえでも、示唆に富んでいると結びました。

「琉球は自国と自国を取り巻く国際情勢を正確に把握し、その制限下で最大限の力を発揮する最適な方法を、各時代であみだしてきました。その歴史、選択には学ぶべきことが多い。日本が置かれている現状を踏まえて、数十年先、日本が活躍できる余地は何か。歴史に学びながら、未来を描いていきましょう」



沖縄の文化と大自然に触れ、未来を想う旅

～有識者講演を取り入れた新しいアクティブプログラム



A

歴史と復興から、戦略を構想する

首里城再建見学コース



東のアザナから
首里城正殿方向

守礼門

Report 編集委員 (株) マルハン 山宿 信也

前日の池上永一氏の講演で「かつての沖縄は内地に比べて劣等感があり『本土化』を目指したが、首里城が復元されてからは自分たちの文化に誇りを持ち『沖縄化』を目指すようになった」という話を受けての首里城訪問。10年前の訪問時にはただ「きれいな宮殿」という印象でしたが、今回は沖縄の人にとって心の拠り所となる特別な場所という認識を持ち、違った視点で楽しむことができました。

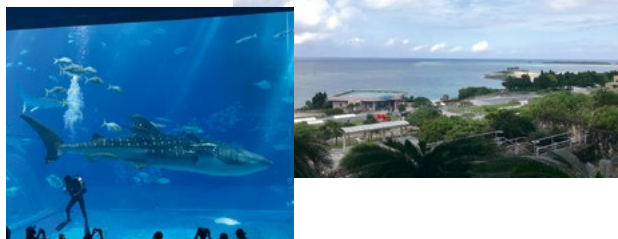
現地での上里隆史氏による講義では、琉球は交易相手国の世界観を受け入れながら生き残りを図ってきたという「持たざる小国の戦略」に感銘を受け、日本も常に謙虚でありたいと思いました。その後、ガイド解説付きの城郭内ツアーでは、正殿が焼失によって完全に無くなってしまっている姿に衝撃を受けました。それでも、復旧工事の様子をガラス越しに見ることができ、再建に向けて着実に動き出している様子を感じることができました。

首里城正殿は2026年の完成を目指しているとのことですが、新たな正殿ができた際には必ず再訪して沖縄の人たちとともに再建を祝いたいものです。

B

サステナブル発想を鍛える

沖縄美ら海水族館バックヤードコース



Report 編集委員 日本通運(株) 大林 孝至

水族館統括 佐藤圭一博士の講演では、市内から北へバスで2時間程の距離に立地し、過去に、テーマパークとして年間入場者数日本一を記録した同水族館も、コロナ禍で入場者がほとんどいない状況となったこと、周辺に目玉となる観光施設がないことや、オーバーツーリズム、脱炭素の推進という課題があり、この解決策として、遠隔地でも楽しめるようにメタバースを使った有料サービスの構築、動物や地球環境の保護に努めたことなどお話をいただきました。

目玉のバックヤード見学では、4～5名のグループで、水槽の真上から下をのぞき込み、ジンベエザメの大きさを体感したほか、クラゲの餌として魚を包丁でミンチ状にする作業、餌になる魚を保管するためのマイナス25℃の冷蔵庫などを見学しました。クラゲなどのとても小さな生物から巨大なサメまでを飼育しているスタッフ皆様のご苦労を間近に感じることができました。

その後、会員同士の交流として、水族館の感想や、日頃のITに関する課題について語り合い有意義な1日となりました。

C

やんばるの自然保護と共生を学ぶ

やんばるちむどんどんコース



Report 編集委員 FITEC(株) 星 さゆり

環境に配慮された電気自動車で、国立公園や世界自然遺産エリアを、ネイチャーガイドの方に案内いただきながら2時間ほど散策するプログラムで、「うぶぎー自然館」では保護活動についての説明を受けました。

自然は「ただただ素晴らしい！」ですが、ヤンバルクイナなどが交通事故で亡くなる数は増加の一途だそう。先人が大切にされてきた自然との共生の在り方などを考える機会となりました。また、沖縄最北端にある辺戸岬にも足を延ばし、サンゴ礁の断崖や遠くに与論島を望むなど、これでもかというほどの沖縄の雄大な自然を感じる感動体験となりました。

感動体験エピソードを1つ。世界自然遺産エリアでは、運が良ければ固有種の動物に出会えますよということでワクワクしていたのですが…、なんと天然記念物である「リュウキュウヤマガメ」に遭遇することができました！これには、参加者一同大歓声でした。